

2days race in 木祖村 2024

事 故 報 告

2024年5月28日

大会責任者 藤森信行

2 days race in 木祖村 2024に参加された選手の皆様、スタッフの皆さま、大会開催を支援して頂いた木祖村様、独立行政法人水資源機構味噌川ダム管理所様、長野県自転車競技連盟様他多くの関係者の皆様には 審判車が選手に追突する事故をひきおこし、ご迷惑をお掛けしてたいへん申し訳ございません。特に 審判車に追突されて怪我をされた選手、またその影響で転倒し怪我をされた選手の方々に深くお詫びをします。このような事故を起こしたことについて弁解のしようもございません。怪我をされた方々の一刻も早い回復を祈ります。警察とのやり取りも一定の目途がつかしましたので 事故の経過についてご報告を致します。

事故の発生経緯

5月19日ステージII（14周回126Km 出走62名）の7周回目の終わり8.6km付近ピット前（走行距離71.6km付近）で13:40頃発生しました。

レースは先頭集団（18人）と第2集団（15人 約1分遅れ）、その後方に複数の小集団の状態で行っていました。第1集団と第2集団のタイム差が十分大きくなったため、COM1カーは第2集団の前を走行する必要がある展開となりました。

補給周回でないため、一ピット区間でしたが一、第2集団の後ろについていたCOM1カーが先頭集団の後ろに入るべくピット前の坂道で追い越そうとしたとき、選手①の後輪に車の左側前部を追突させてしまいました。弾みで選手①は左側に倒れ、審判車の左前後輪が自転車に乗り上げて通過しました。転んだ選手の左側にいた選手②も転倒しました。さらに左側にいた選手③も足を地面に付けて 走行を止めてしまいました。

補給周回でない周回でありましたが、ピット区間で集団を追抜こうとしたことは、誤りでした。さらに、事故を引き起こしたCOM1車が事故現場を離れてしまったことは、言い訳のできない誤りです。ドクターカーが負傷者の救護にあたりましたが、レースはもう2周したところで警察官と救急車が到着し、 漸くレース中止としました（走行距離約90km）。事故後、直ちにレースを中止すべきでした。これも 言い訳のできない誤りです。追突された選手①は救急車にて、木曽病院に緊急搬送されました。直ちに現場検証が始まり 木曽病院から帰ってきた選手①も加わって 現場検証が続き、最終的に20:30分頃に帰宅が許されました。

現場検証前後で各チーム監督に対して、不十分な説明しかできなかったこと、申し訳あり

ません。また、直ちに説明会を開くことができなかつたため、各チームの帰宅時間を不必要に遅くしてしまつたことお詫び致します。

怪我人の状態（5月21日時点）

追突された選手① 打撲と擦過傷（救急車で木曽病院に救急搬送されました、全治4週間）
自転車は全損

左にいた選手② 右足関節挫傷、右膝関節挫傷、臀部挫傷、右手関節部挫傷、右肘関節挫創、背部挫傷、頸部挫傷、右手に痺れが残る。

その左にいた選手③ 特に怪我はないが 自転車に傷発生

大会の成績

ステージ2は90km地点で中止されたため 大会全体の成績は ステージ1B終了時点の成績をもって 最終成績とします。

この度は、多大なるご迷惑をお掛けしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

山口 わたくしの運転で選手達に怪我をさせてしまい申し訳ありませんでした。

なんとお詫びしてよいかお詫びのしようがありません。一刻も早い回復を祈ります

藤森 追突事故を起こしながら 車を停止して怪我人の救護に当たらなかつたことについては 弁解のできない誤りです。また、競走を直ちに中止できなかつたことについても、弁解のできない誤りでした。深く反省しております。怪我をされた選手の一刻も早い回復を祈っております。

今後、大会の存続を含めて、安全対策を検討し、今後このような事故の無いように努めてまいりますので、なにとぞ御容赦賜りますようお願い申し上げます。